



4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

地域に学び 地域に誇りと愛着を

— 世界遺産学習 — 2014年度

奈良市立済美小学校

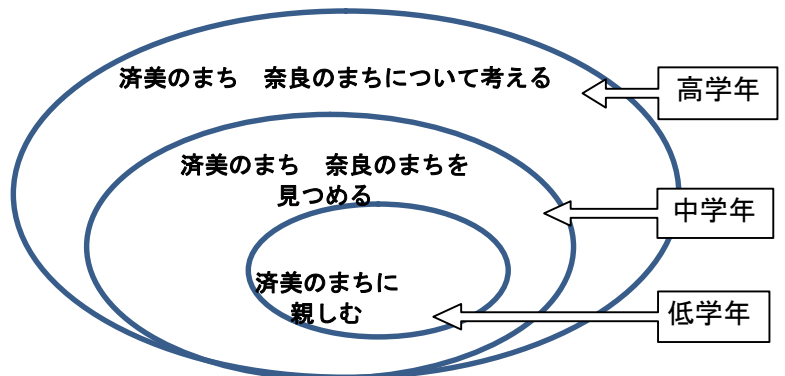
本校は、世界遺産学習を教育課程に位置付け、低学年より系統的な学習を積み重ねてきた。本校の近隣には、世界遺産「古都奈良の文化財」に含まれる元興寺や興福寺がある。それを活かし、地域に残る「人・もの・こと」を題材として生活科や総合的な学習の時間を中心に、いろいろな場面で世界遺産学習を展開している。これは、様々な視点から地域について自ら調べ、学び、考える学習を積み重ねることで、地域に誇りと愛着がもてるのではないかと考えているからである。そのため、低学年から空間も内容も同心円的に広がるような、地域について学び続けるカリキュラムをつくっている。

本学年の児童は、低学年においては、学校探検やまち探検を通して、このまちに住む人の優しさに触れ自分達の住んでいる済美のまちのよさを感じることができた。

3年生では校区の様子（ならまち）について、社会科や総合的な学習の時間で、ならまちは人々の思いや努力によって、町並みや伝統工芸が昔の形のまま残されていることに気付くことができた。4年生では、四季を通じて奈良公園の自然を観察したり、地域の発展に尽くした人を調べたりすることにより、奈良のすばらしさに気付くことができた。また、その活動を仲間同士で交流することによって新たな発見につながったのではないかと考える。このように、済美のまち 奈良のまちに親しみ、見つめることによって、郷土の大切さを理解できたのではないかと考える。

5年生では、世界遺産見学や世界遺産を守るためにできることを考える学習を行っている。また、6年生での歴史学習をふまえた地域の遺産を探る学習などを通して『済美のまち・奈良のまちについて考える』。

このように、低学年から、空間も内容も同心円的な広がりをもって地域について学び続けるカリキュラムをつくっている。特に、高学年では、毎年新たな教材を開発しながら取り組んでいる。



「わくわくセンター学習」で、奈良の伝統工芸の一つである奈良筆づくりを体験した。1300年以上前から使われ、今も自分たちが使っている筆がどのようにして作られているのかを伝統工芸士さんから学んだ。そして、実際に作ってみることで奈良筆に対する愛着をもつとともに、職人さんの技術の高さやそれを長く受け継いできている奈良の人の思いについて考えることができた。



子どもの感想

- ・ルリセンチコガネが鹿の糞を分解してくれているおかげで、奈良公園が鹿の糞だらけにならずにすんでいることを知った。小さな昆虫なのに、すごい働きをしているんだなあと思った。
- ・自分のお金で土地を買ってまで平城宮跡を保存しようとした棚田嘉十郎さんのおかげで、今の平城宮跡があるんだと初めて知った。観光客に、「奈良の都の跡はどこですか？」と聞かれても、今はすぐに案内できることを嬉しく思った。
- ・筆作りの線込みと仕上げをした。線込みでは、ナイフを筆の穴に入れてコロコロと回して穴を削った。仕上げでは穂に布海苔をしみこませ、糸を巻いて布海苔を絞った。ぼくは習字を習っているので、一回筆を作りたいと思っていたから今回、自分で作ることができて嬉しかった。

5年生

『東大寺を案内するスペシャリストになろう』（総合）

指導者がESD日米教員交流プログラムにおいて、米国訪問をした時の嬉しかったことや困ったことの話から問題を提起し学習をスタートさせた。そこで、奈良のまちに住む自分たちこそが、案内人となり、奈良のまちをもっと好きになってもらったり、もう一度奈良を訪れてみたいと感じてもらったりできる「まち」にするために「東大寺を案内するスペシャリストになろう」という学習テーマを設けた。

「知る」「好きになる」ことが大切なのではないかという児童の



意欲的な意見を基に「詳しい人に聞きたい」「本やインターネットで調べたい」「実際に現地に行きたい」「観光旅行者や修学旅行生にインタビューをしたい」という学習活動を行った。また、タブレット端末を活用し、集計結果を表やグラフにまとめ、課題を見出した。見えてきた課題を根拠に、自分たちには何が出来るのかを考えた。その結果、各学級で6つのプロジェクトを立ち上げ、プレゼンテーションを行った。その際、背景の違う多様な方々をゲストティーチャーに招き、多種多様な考え方ができる児童の育成を目指した。そして、その方々にコメントをいただき、自分たちのプロジェクトについて考えを深めた。最後に、1年間の学習を振り返り、凝縮ポートフォリオにまとめた。この学習を通して、新たな奈良の魅力に気づき、地域に誇りと愛着をもち、積極的に地域と関わりながらよりよく生きようとする児童の意欲と態度を育むことができた。



子どもの感想

- ・東大寺にこんなにたくさんの方々の願いや思いがあるということを知らなかったけど、学習を行って東大寺を見る目が変わった。
- ・東大寺のことについて知っているつもりでいたけれど、知らないことが多すぎたので、もっと勉強をしたいと思います。
- ・自分たちが知ったことをもっと、たくさんの方々に知ってもらいたいと思った。
- ・自分が立ち上げたプロジェクトが実現できるようになってほしいと思った。
- ・タブレット端末を活用しての学習は、友達に自分の意見を伝えやすく大変便利だと思った。友達の意見を聞くときもTV画面にあるグラフや写真を見ながら聞けるので分かりやすかった。

6年生

『未来予想図 Nara Palace Site』(総合)

6年生の児童は、低学年から「町たんけん」や「済美の地図づくり」、「奈良公園たんけん」など、地域の「人」「もの」「こと」を題材にして済美や奈良のよさを見つける学習を積み重ねてきたこともあり、済美のよさ、奈良のよさをよく知っている。夏休みの自由研究では、「平城宮跡について」というテーマで、古都奈良の文化財の一つ、平城宮跡についてより深く調べる活動を行った。社会科で学習したことともに、歴史的な背景にも興味をもって取り組めた。

平城宮跡の未来を考えるにあたって、自分たちの考えだけでなく、いろんな人の意見を取り入れようということで、三条通り、JR奈良駅前、平城宮跡、奈良公園と4か所でアンケート活動を行った。その結果をもとに、未来予想図を考え、発表の仕方を工夫したり、表現方法を磨いたりするなど、どうすれば自分たちの考えを伝えることができるかを追求しながら活動することができた。また、タブレット端末を使い、聞き手に分かりやすくなるように、写真や動画を使うなどの工夫もみられた。

その発表を見た参観者から「平城宮跡だけでなく、奈良の未来も考えてもらいたい」という意見をもらい、「未来予想図Ⅱ Nara city」というテーマで奈良の未来について考え、「Action plan」を策定し自分にできることを実行し始めることができた。



出てきた意見を選んでいる児童

子どもの感想

- ・未来を考えることは難しかったけど、アンケートなどをもとに予想図を考えるのは楽しかった。
- ・自分たちの考えた未来予想図をいろんな人に聞いてもらい、いろんな意見をもらえてよかった。
- ・「平城宮跡の未来を作っていくのは君達だという、歴史公園の方の話聞いて、少しでも近づけるように頑張らないといけないと思った。
- ・昔の風景で、今は見られなくなった物がたくさんある。今私たちが選んだ新南都八景は、できる限り未来に残していきたい。そのためにできることはしていきたいと思う。

図画工作科

「私の好きな仏様」(6年)

身近な奈良にある国宝の仏様(東大寺のだいぶつ、法華堂の観音、興福寺の阿修羅など)数えたらきりがなくたくさんある。写真ではあるが、自分の好きな仏様を姿をふでと墨で和紙に描く。その仏さまに薄墨で影をつける。切り抜き台紙に貼り、仏様の手の表情を見たり、目の様子、視線の向こうにあるものを想像したりして、五七五の俳句を書いてしあげる。

その後に仏様の見分け方の話をし、少しでも奈良の仏様に興味を持ち、自分で仏様に会いに行ってくれたらと、願っている。



子どもの感想

- ・私は、仏像の絵をかいて、昔の人は、すごいなあとおもいました。仏像の形や服のなびき方などがとてもなめらかでまるで全ての仏像が生きているように思えました。仏様のやわらかな表情や手の形から、昔の人々が、仏様を信じて、神聖な物として、あつかっていることがよくわかりました。阿修羅は、武神でありながらも、戦いの服装ではないことから、反乱などを人々が恐れていたことを自分の中で感じました。いま、国宝として大切にされ続けている仏像をこれからの世代にも受け継ぐべきだと感じました。
- ・仏様の見分け方を聞いて、仏様には色んな意味があってびっくりしました。仏様たちは、如来、菩薩、明王、天という4種類のグループに大きく分けられていることがわかりました。

音楽科

『わらべうたで遊ぼう』（3年）



地域にある奈良市音声館[おんじょうかん]を組ごとに訪れた。音声菩薩からこの名前がつけられたとの説明がありました。その後、3種類の遊びを紹介していただいた。1つめは「べんけい」というわらべうたで遊んだ。2つめは「フヤ」というブラジルの遊びを学んだ。トラ・うさぎ・コンドル・コブラ・ドラゴンのポーズをリーダーと違う動作できめる。勝ち抜き戦でみんなが笑顔になって楽しめた。3つめの「もぐろうもぐろう」で輪になって手をつなぎ前進し「かえろう」で輪を広げる遊びで

は、グループで一体感をもつことができた。ふだんの遊びの中で、自然にわらべ歌を口ずさみながら友だちと遊ぶ子どもの姿を見たいと願っている。

子どもの感想

- ・「べんけい」は、みていると簡単そうだけど、やってみると、左右の手の動きがごっちゃになってむずかしかったです。
- ・「もぐろう もぐろう」は友だちと手をつないでやったのでとても楽しかったです。
- ・「フヤ」という遊びはブラジルのわらべ歌とは知らなかったです。できたらブラジルに行ってブラジルの人と一緒にやってみたいです。

家庭科

『伝えたい大和の和菓子“葛まんじゅう”を作ろう』（5年）

『伝えたい大和の郷土料理“奈良のっぺ”を作ろう』（6年）

江戸後期から代々受け継ぐ「吉野晒し」の製法で作らあげた“吉野本葛”を使った“葛まんじゅう”作りをした。老舗のお店の方に出前授業をしていただいた。初めに、“吉野本葛”の製法や作り方などの説明を聞いた。その後、グループに分かれて“葛まんじゅう”作りを行った。葛を練る時の火加減や、固くなり始めても5分程木しゃもじで混ぜ続ける等に気を付けて作った。ラップに冷めた葛をのせ、丸めた餡を包んだ後、銘々皿にのせた。大和茶を急須に入れて、お茶のひとつときを楽しむことができた。



子どもの感想

- ・葛の根っこが太くて、木みたいでした。
- ・鍋をかきまぜていたら、思っていたより早くできてびっくりしました。
- ・固いのかと思ったら、柔らかくて、葛のところもあんもおいしかったです。
- ・こんにゃくや野菜の切り方を工夫した。大根や人参は、皮付きのまま出し汁で煮たことが、家のは違っていた。
- ・砂糖を入れていないのに、甘さを感じた。だしの味で、おいしかった。

【活動の成果】

世界遺産をはじめ、数々の文化遺産に囲まれて生活している子どもたちにとっては、それらは当たり前の風景として存在するものであって、本当の価値やそれがそこにあることの意味を知らないままで過ごしているのが実状である。そこで、様々なアプローチで自分たちの住んでいる済美や奈良を見つめ、知ることによって、済美のまちや奈良のまちに誇りと愛着がもてるようになり、ひいては持続可能な奈良の担い手を育てることにつながるを考える。「奈良を知り」「奈良に触れ」「奈良の人と関わる」ことで、奈良に残る様々な文化遺産を未来へ大切に残し、繋いでいくその可能性が広がるものと信じている。

本校では、2008年度より学校全体で世界遺産学習を教育課程の中に位置づけて取り組んでいるが、年を追うごとに、「こんな学習はどうか」「こんな活動もできるのではないか」と、職員みんなが新たな実践に取り組んだ結果、各学年、各教科・領域において様々な実践が積み上がってきている。その成果が、アンケートにも表れている。児童アンケートでは「済美や奈良の町が好きになった」と答えた児童は、99%にのぼった。また、保護者アンケートでは、「世界遺産学習」「奈良公園学習」「町探検」においては、過半数の保護者が「特色ある教育活動」だと答えている。これらのことから6年間の地域を見つめる活動を通して、児童にも保護者にも、済美小学校の世界遺産学習が馴染んできていることがわかるし、すてきな奈良を大切に守っていきたいという強い思いが、児童の中に生まれてきている。

奈良の多くの遺産は、放ったらかしにしている残していくことができない、そこには必ず人の力が必要だということを実感できるような学習や活動を今後も積み重ねていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）